

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)
分担研究報告書

地域におけるがん緩和ケアをコーディネートする人材の育成と支援に関する研究

研究分担者

吉田沙蘭 国立がん研究センターがん対策情報センター・精神腫瘍学 心理療法士

研究要旨

本研究では、地域緩和ケア連携調整員の育成を目的とした教育研修プログラムを開発する。本年度はプログラム開発の準備段階として、関係するテーマに関する面接調査を実施した（各分担研究者の報告書参照）。面接調査から得られた結果をもとに、来年度プログラムの開発および試行を行う予定である。

A. 研究目的

がんの終末期における地域緩和ケア連携の体制づくりを担う、地域緩和ケア連携調整員（仮称）が設置されることが決定した。平成28年度より、その育成が開始することが決まっており、地域緩和ケア連携調整員に期待される資質および知識、技能等を整理することが求められている。本研究では、地域緩和ケア連携調整員の育成を目的とした教育研修プログラムを開発する。

B. 研究方法

他の分担研究者が実施した面接調査の結果を元に研修プログラムを開発する。現在面接調査が継続していることから、現時点での調査結果を元に研修プログラムの素案を作成する

C. 研究結果

以下に、研修プログラムの素案を示す。
研修目標：①「地域緩和ケア連携調整員」に求められる役割を理解する。②がん医療における地域緩和ケア連携を進めていくうえで、自地域の現状を把握し、課題を整理する。③有識者や他地域からの参加者との意見交換を参考にし、自地域の参加者ととも課題解決の方向性を検討して見出す。
研修対象：地域のネットワークを構成するがん診療連携拠点病院、在宅医療・介護連携支援センター、医師会等の連携担当者などの複数名からなるチームを予定。
プログラム：

1. 地域緩和ケア連携調整員の役割（講義）
2. 事例紹介
3. 自地域の地域緩和ケア連携の課題の抽出（グループワーク）
4. 有識者、他地域からの参加者との意見交換
5. 自地域の課題解決に向けた行動計画案の作成（グループワーク）
6. 行動計画案の共有

D. 考察

現時点での調査結果を元にした研修プログラムの素案を作成した。今後、調査の解析終了の後にプログラムを確定する。

プログラム開発にあたっては、本年度実施した面接調査の結果（各分担研究者の報告書参照）および研究者間でのディスカッションを元にプログラム案を作成し、複数の立場の専門家から成るパネルでの意見をもとに修正を加えた後、パイロット版の研修会を施行する。その効果を評価したうえで必要に応じてプログラムの再修正を行っていく予定である。

E. 結論

今後引き続き研究を進め、研修会において、地域緩和ケア連携調整員の候補者である受講者が、期待される役割について学び、それぞれのネットワークの現状を把握し、課題を整理したうえで、ネットワークの中での組織作りと課題解決の方法について検討することができる効果的な研修プログラムの作成を行っていく。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. そ